

「台風惨禍」に想う

兪 老 児

「一八号台風」は全国的に大きな被害をもたらし、北海道でもその暴風による被害はかつてないほどの規模で、被害額は数百億円にのぼると見られています。被害の過半は農業、林業、水産業などの一次産業で、果樹地帯などでは壊滅的な打撃を受けました。

被災された地域、関係者の方々に心からのお見舞いを申し上げたいと思います。タイムリーかつ適切な被害対策が国、道等の総力をあげて講じられることを切望するもの一人です。このような時にヤンキースタジアムでの始球式で悦に入っている日本宰相の姿をテレビを見て、ミヨウに腹立たしくなるのは筆者のひねくれ根性なのでしょうが、国連総会に出席するための渡米中ということですが。

テレビ報道は、日本が台風に襲われている時に、奇しくもアメリカで猛烈な「ハリケーン」の襲来があったと伝えていました。そこで、これら暴風雨をもたらす熱帯性低気圧のことを調べてみました。

では、まず台風とは、何でしょうか。熱帯地方で発生する低気圧のうち、東経一八〇度より西の北太平洋と南シナ海で、最大風速が毎秒一七・二以上になったものをいうのだそうです。台風と同じように強い風が吹く熱帯低気圧は世界のほかの場所でもありますが、インドの南側で発生するものは「サイクロン」、アメリカの南部やオーストラリアの東側で発生するものは「ハリケーン」と呼びますが、フィリピンの人は「バギオ」、オーストラリアの人は「ウ

イリー・ウイリー」と呼んでいるそうです。

さて、北海道にも暴風による大被害をもたらした台風として有名なのが昭和二十九年の「洞爺丸台風」で日本列島を猛烈なスピードで駆け抜け、九月二十六日二一時には寿都沖に達し、北海道の各地では毎秒三〇以上の暴風が吹き荒れ、函館港から出港した洞爺丸を始め、五隻の青函連絡船が暴風と高波で転覆し、洞爺丸の乗員乗客一、一三九名が死亡するなどの大惨事となりました。また岩内町では三、三〇〇戸が焼失する大火が発生した他、道内の山林では膨大な風倒木がでて、その処理に長い歳月を要したようです。筆者はまだ中学生でしたが、住んでいた炭坑町住宅のコンクリートブロックの煙突が折れ、屋根を突き破って台所に落下、仰天したのを鮮明に覚えています。



このたびの「一八号台風」は風速では、この「洞爺丸台風」を凌ぐ強さだったようで、事務所窓から見える道庁周囲のふた抱えもある街路樹がベキベキと折れたのも肯けましよう。我が家でも板塀がかなり倒れましたが、家庭菜園のビニールハウスが不思議にも持ちこたえました。

我が家ではかつて土台基礎をシッカリと留めていなかった鉄骨トタン製の車庫が吹き飛ばされて隣家の畑に落下、ヒシャゲた鉄骨をトーチランプで切断してやっと搬出したというお恥ずかしい経験があります。その時に、風には「通

り道」があるのでないかと感じました。



台風後、機会があつて石狩と空知、北見、網走方面を車で走りましたが、イネの倒伏や街路樹、山林の樹木の倒れ方を観察しましたが、やはり「通り道」があるのだと確信しました。風は、広い範囲を面として均一な強さ、同一方向で吹くのではなく局所的によじれたり、強さもマダラ模様になるのですね。しかし、小さな林の外周は樹が無事なのに、内側の樹が倒れているのを多く見かけましたが、これは「通り道」説（？）では説明がつきません。

ある植物生態学の研究者は、「北海道に栽植された外来樹種（例えばポプラ等）は風害に弱く、在来樹種（ミズナラ等）は強い。なぜなら在来樹種は何万年もの間の風による選抜淘汰の勝者だから」とラジオで語っていました。一般論としてはなるほどと思いましたが、外側・内側の事例には該当しないので、また別の解析（おおげさかな？）が必要でしょうね。ぜひ専門家のご意見を聞きたいものです。ある友人はこともなげに「なあと樹にだつて打たれ強いのがあるのさ」と。そう言えば、逆境と困難に挫けてしまう打たれ弱いタイプと、敢然とこれ乗り越えるタイプの人がありますよね。筆者も後者を目指してはいるのですが、いずれにしても、風は風でも「苦駒旋風」とか「シンジョウ旋風」なら、北海道は大歓迎ですよ。みなさん！